

子供たちの未来を応援するカンロの CSR 活動  
 「カンロ飴を届けよう～キャンディのうらがわ～」が  
 「教育応援グランプリ 2017」において  
 “銅賞”を受賞

カンロ飴やピュレグミなどでおなじみのカンロ株式会社(本社:東京都中野区、代表取締役社長:三須和泰、以下 カンロ)は、株式会社リバネス(本社:東京都千代田区、代表取締役社長:丸幸弘)が運営する教育応援グランプリ実行委員会主催の「教育応援グランプリ 2017」(2017年12月3日開催)において“銅賞”を受賞しました。



■研究、商品企画から営業体験も含む幅広い範囲を学べる点が評価され、受賞

「教育応援グランプリ」は、企業による教育活動を応援することを目的に、リバネス教育総合研究センターと有識者が協力し、2012年から実施しているコンテストです。2017年は20社からのエントリーを受け付け、学校教育や国連のSDGs(持続可能な開発目標)、CRM(コース・リレーティッド・マーケティング)などの視点から審査を実施し、受賞企業を選出しています。

カンロの教育 CSR プログラムは、2016年より開始し、これまでに8か所、168名の子供たちがプログラムに参加しています。当社では社員参加型の CSR 活動を推進しており、18部門24名の社員が参加していることも高く評価されました。

【教育応援グランプリ 2017 における賞の構成】

プラチナ賞	過去に金賞ならびにグランプリを受賞したことがあり、本年度も金賞と同等の活動をされている企業に贈られる。
グランプリ	有識者により構成される審査員の先生方による審査により決定。金賞を獲得した企業のいずれか1社に贈られる。
金賞・銀賞・銅賞	有識者により構成される審査員の先生方による審査により決定。

## ■「カン口飴を届けよう～キャンディのうらがわ～」について

当社は、創業から100年以上に亘り、「キャンディが人と人がつながるきっかけとなってほしい」との思いをもって、カン口飴やのど飴等のキャンディを世の中に送りだしてきました。



現代は、人とのつながりが希薄になっているといわれています。教育現場でもコミュニケーション能力が重要視されており、2020年度の小学校から順次実施される次期学習指導要領でも自ら問題を見つけて解決する力を育成する「主体的・対話的で深い学び」を全教科で導入することが求められています。

また、一般社団法人日本経済団体連合会が実施した新卒採用に関するアンケートの「選考時に重視する要素」ではコミュニケーション能力が13年連続1位となっています。

このプログラムでは当社の一連の企業活動を通じて、キャンディが届くまでにどれだけ多くの人が

つながっているかを学びます。体験・学び・グループワーク等を通じて子供達が自分の考えをしっかりと持ち、多様な考えの人と偏見なく、つながっていく人になってほしい、そんなメッセージを込めています。

### <プログラム概要：90分>

- ①DVDによるキャンディの作り方
- ②研究・生産・営業の仕事体験やグループワーク
- ③キャンディの届け方を考える個人ワーク
- ④発表&まとめ

## ■審査委員長 リバネス教育総合研究センター 藤田大悟 氏

商品の紹介が軸ではなく、「人と人のつながり」を軸にプログラム開発されている。会社の理念を伝えつつ、子どもたちへのメッセージもあり素晴らしい活動である。流通のあり方を題材にコミュニケーション能力の涵養を学んでもらうユニークかつ明確な概念をもっている。また、16部門による組織横断的な社員研修にも取り入れることで社員と子どもが学び合う機会が生まれはじめており、これからの発展が期待できる。将来の人材獲得の視点も加えプログラムを昇華させてほしい。学校教育との連携がわかりやすいとより導入されやすいであろう。効果検証については、社外の専門家の知見を取り入れたり、社内外で議論を続けることで納得のいく形を作り上げてほしい。